

令和4年3月4日

令和3年度 優秀卒業論文賞総評

優秀卒業論文賞選考委員会 委員長

保 莉 佳 昭

1. 審査の方針

審査にあたっては、推薦された卒業論文について、それぞれ注記・参考文献の整備、論文としての体裁、そして内容の卓越性を重視した。これらの審査方針に照らし慎重に審査をした結果、以下の13編を「令和3年度優秀卒業論文賞」と判定した。

2. 優秀卒業論文13編の執筆者とタイトル（執筆者の五十音順）

- (1) 秋本真由奈 「コストリーダーシップ戦略と差別化戦略の両立 -なぜGUはファーストリテイリングにとって第2の柱に成り得たのか-」
(中川充ゼミナール)
- (2) 池田雄一郎 「企業価値と人的資本の関係性 -企業価値の本質-」
(村井秀樹ゼミナール)
- (3) 石川七海 「日韓の次世代に残された歴史問題」
(井手康仁ゼミナール)
- (4) 木田篤史 「The Reduction of CO2 Emissions and Our Future Plans」
(金指崇ゼミナール)
- (5) 菅野雅貴 「劇画の誕生とその変遷」
(服部訓和ゼミナール)
- (6) 高瀬理帆 「今後の地方創生に向けた地域経営の在り方 -群馬県富岡市をフィールドとして-」
(木下征彦ゼミナール)
- (7) 竹川陽紀 「飲食店におけるプロダクト・ライフサイクル理論を用いた考察 -「いきなり！ステーキ」に関する企業研究-」
(坂本義和ゼミナール)
- (8) 中出悠花 「アパレル産業における環境配慮対応策の考察」
(秋川卓也ゼミナール)
- (9) 原田壮 「アニメーション技術の歴史 -日本におけるアニメ産業の課題-」
(小島智恵子ゼミナール)
- (10) 平松翔 「若者の結婚観に関する研究～インターネット上における配偶者との出会い方に焦点を当てて～」
(塚田典子ゼミナール)

- (11) 山本大輔 「バイオメトリクス認証を用いた新たなキャッシュレス決済システム」
(相澤朋子ゼミナール)
- (12) 若林大起 「キャッシュレス決済に関する一考察」
(劉慕和ゼミナール)
- (13) 渡邊まりも 「4つの視点から見る観光地選択動機 -静岡県熱海市を事例に-」
(山根龍一ゼミナール)

3. 全体の講評

今回、推薦のあった卒業論文について、慎重な審査を行った結果、上記の13編の論文が優秀卒業論文賞として合格となった。論文の内容を見ると、経営戦略、企業価値、日韓の歴史認識、劇画、アニメーション技術、地球温暖化、地方創生、プロダクト・ライフサイクル、環境配慮対応策、若者の結婚観、キャッシュレス決済、そして観光地選択動機と、実にバラエティーに富んでいる。現代社会はボーダーレス化が進み、商学部の学生の興味も多種多様になっている。今回受賞した卒業論文も、いわゆる「ビジネス」との関係が深い課題から浅い課題まで多岐にわたり興味深い。学生たちは、目まぐるしく変化する現代社会の中で、それぞれ自分の関心事を積極的に見つけ、ゼミナールという場で、3年間の調査研究を経て、その学修成果を卒業論文という形で見事に結実させている。これは、言うまでもなく学生自身の努力の結果ではあるが、指導された先生方の学識の広さと懐の深さによる所も大きい。学生の興味・関心を尊重し、時には厳しく、時には暖かく、3年間にわたり指導された先生方に改めてお礼を申し上げる。

これらの受賞論文は、論文要旨と講評が商学部ホームページに掲載されるとともに、製本されて図書館に長く保管される。ゼミナールに所属する学生はもとより、これからゼミナールの入室を希望する学生にとっても、優秀卒業論文賞の存在は非常に励みとなる。今後も優秀卒業論文賞という制度が、学生たちの知的好奇心を刺激し、研究成果のレベルアップに貢献することを期待するとともに、日本大学商学部のゼミナールの伝統が長く受け継がれることを願ってやまない。